

共同獣医学部
附属越境性動物疾病制御研究（TAD）センター及び分子病態学分野
合同特別セミナーの企画

日 時：2013年 1月16日（水）17：00～18：00（60分）

場 所：農・獣医共通棟 302号室（遠隔授業システムにより山口大へ同時配信）

演 題：「**動物プリオン病の最前線／現状**」

講 師：農水省動物衛生研究所プリオン病研究センター

センター長 **毛利 資郎**博士（鹿大獣医学科S50卒）

参加者：獣医学科教職員および研究生・学部学生（山口大も参加）

県・市・その他学外からの参加者もOK

講演内容：

1986年に伝達性牛海綿状脳症（BSE）が発見されて以来、BSEはヨーロッパを始め世界各国で人の健康や経済に様々な影響を及ぼしてきました。飼料規制をはじめとする種々の対策が効を奏し、BSEは終息に向かいつつあります。日本も、国際獣疫事務局（OIE）のBSEステータスである「無視できるリスクの国」に向けて申請中です。わが国の食品安全委員会では牛の検査月齢見直しの第一段評価が終了し、厚生労働省に答申しました。しかしながら、この規制緩和に対してマスメディアや政策主導の異論も多く出されています。獣医学、畜産学あるいは生物学にかかわっている者は、月齢見直しの科学的知見を正確に把握した上で、BSEのリスクについて正しく評価していただきたいと思います。このゼミでは、BSEの検査月齢の見直しの概要とそれに用いられた感染実験を中心とした知見、さらに、非定型BSEについてもお話しします。